

報告

関東支部会報告

「3D, 4D を生かした天文教育・普及」

2008年12月21日 科学技術館シンラドーム 45名参加

半田利弘(東京大学)

今回の関東支部会は表記テーマのもと、関連講演5件と一般講演5件、及び、全天周立体視施設であるシンラドームの見学が行われた。支部会終了後には地下食堂にて懇親会が開かれ、本編の話題を中心に熱心な議論も行われた。

1. テーマ関連講演

科学ライブショーユニバースとシンラドームの意義 (半田利弘)

ライブショーであることのポイント。連続動画やCGで視点移動が比較的容易に伝えられることなど、3D画像の利用が天文教育普及に有効であることなどが紹介された。

科学ライブショーユニバース特別編

(半田利弘+ちもんず)

一般来館者に対して行っているのと極力同じ演出方法でユニバースを上演した。科学ライブショー「ユニバース」と歩む学生集団ちもんずの活動紹介(ちもんず 小川慧)ユニバースを支えるちもんずの活動内容とその継続のポイントが紹介された。

シンラドームの現状とこれから

(オリハルコンテクノロジーズ 高幣俊之)

システム構成の現状と今後のコンテンツの紹介と展望が紹介された。

シンラドームのハードウェアシステム

(日本科学技術振興財団 奥野光)

設備の概要と特徴が紹介された。

2. 一般講演

2009年7月22日の日食観測の動向について

(石井馨)

観測地の天候統計を含む詳細な情報と、当日に向けての情報提供を継続する旨が紹介された。

百聞と一見～“実感太陽系”を例に

(半田利弘)

比喩やモデルを用いる際には伝える内容を良く考慮して選択する必要があることが指摘された。

触察資料と言葉で宇宙を楽しむ-「科学ヘジャンプ・サマーキャンプ2008」での試み

(藤原晴美)

視覚障害者を対象とした天文教育普及についての具体的な活動が紹介された。

職員室にて

(佐藤明達)

画一的な回答を要求する親とそれに対応する学校教員を寸劇で演じ、関連する問題点が指摘された。

天プラにお願い

(佐藤明達)

単に楽しいというだけではなく、ポリシーを持って普及活動して欲しいとの意見が表明された。

3. 見学会

ドーム立体視映像番組「コズミックディスクカバリーズ」の鑑賞

シンラドームオリジナルの宇宙番組を全員で鑑賞し、ドーム立体視映像の効果を体験した。